

単元名 マングローブ林の保全活動について

氏名：井上 祥太郎

学校名：釧路市立昭和小学校

担当教科：

実践教科： 社会

時間数： 4時間

対象学年： 6年

人数：40人

学習領域

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 関連するSDGs |
|----------|------|------|-------|----|------------|
| A多文化社会 | 文化理解 | 文化交流 | 多文化共生 | | 陸の豊かさを守ろう。 |
| Bグローバル社会 | 相互依存 | 情報化 | | | |
| C地球的課題 | 人権 | 環境 | 平和 | 開発 | |
| D未来への選択 | 歴史認識 | 市民意識 | 社会参加 | | |

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：

マレーシアのマングローブ林保全活動を行っているウェットランドセンターの取組を通して、環境保全の必要性や、自然保護団体と住民が相互に協力して持続可能な社会を目指すことの重要性をつかむことができるようにする。

| | | |
|---------------------|--------------|---|
| 【2】 単元の評価 規準例 | (ア) 関心・意欲・態度 | マングローブ林保全活動に関心を持ち、進んで調べようとしている。 |
| | (イ) 思考・判断・表現 | 自然保護団体と住民が相互に協力してマングローブの保全を行うための解決策を自分なりに考え、表現している。 |
| | (ウ) 技能 | 自然保護団体と住民が相互に協力してマングローブの保全を行うための解決策をインターネットや資料を活用して調べ、まとめている。 |
| | (エ) 知識・理解 | マングローブ林を保全するために、自然保護団体と住民が相互に協力していくことの重要性を理解する。 |

| | |
|----------------|---|
| 【3】 単元設定の理由 | マングローブの植林活動をしているウェットランドセンター（自然保護団体）の取組を中心に上げ、自然保護活動を行う意義や苦勞を理解させたい。意義の部分では、ウェットランドセンターには30種類以上のマングローブ林があり、90種類以上の野鳥など様々な動植物の住家になっていることをクイズを通して理解させたい。次に課題として、保護しているマングローブ林に生活排水が流れ込み、ゴミが至るところに散乱している実態や近隣住民がマングローブ林に侵入し、魚釣りをして食料を得ている実態にも触れる。 |
| ✓ 児童/生徒観 | 今回は、その最大の課題である「住民との共存」をテーマにロールプレイを行う。具体的には、住民側と自然保護団体側の2つの立場に分かれ、自然保護団体と住民が相互に協力してマングローブを守る方法を考えさせる。ロールプレイを通して、住民との共存の難しさを理解させたい。また、自分たちなりに折り合いをつけさせ、実態と比較し、今後の保護の在り方を探る機会にもする。 |
| ✓ 教材観 | また、地元釧路市でもラムサール条約に登録されている釧路湿原があることから、地元の自然を理解させるきっかけにしたい |
| ✓ 指導観 | |

| 【4】展開計画（全4時間） | | | |
|---------------------------------|--|---|---|
| ※全体の総時間数や「本時」の記入場所は適宜変更して下さい。 | | | |
| ※活動・内容の部分は具体的に記載下さい。適宜写真を添付下さい。 | | | |
| 時 | テーマ・ねらい | 活動・内容 | 使用教材 |
| 1 | 1、マングローブ林について知る。 2、マングローブ林の保全の必要性や自然保護の課題について知る。 | <ul style="list-style-type: none"> マングローブの写真を分割したものを児童に配り、何種類か用意し、同じ写真同士でグループを作る。 マングローブに関するクイズをする。 <ol style="list-style-type: none"> マングローブに生きる動植物の数 マングローブの種類の数 写真にキャプションをつける。 <ol style="list-style-type: none"> マングローブにゴミが落ちている写真 植林をしている写真 マングローブの中に人が侵入しているところを注意している写真。 | <ul style="list-style-type: none"> マングローブの写真 マングローブで生きる動植物の写真 |
| 2 本時 | 3、自然保護団体と住民が相互に協力してマングローブを守るためにはどうすべきか考え、相互に協力するのは難しいという課題をつかませる。 | <ul style="list-style-type: none"> ウェットランドセンターに住民が侵入し、マングローブ林の中にある生き物を食べて生活している実態に触れ、自然保護団体と住民の対立のロールプレイを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 住民の主張プロフィール。 |
| 3 | 4、自然保護団体と住民が相互に協力して持続可能な社会を目指す方策を考える。 | <ul style="list-style-type: none"> 自然保護団体と住民が相互に協力してマングローブを守る方法を考える。 ウェットランドセンターでは、地元住民にマングローブの賢明な使用方法について教育するためにどんなことをしているのか紹介する。 | |
| 4 | 地元釧路湿原の保全について調べ、身近な自然を守るために自分たちができることを考える。 | <ul style="list-style-type: none"> 釧路湿原に生きる生き物や湿原を守る必要性について調べる。 釧路湿原を守るための取組について調べる。 自分たちにできることを考える。 | |
| 【5】本時の展開 | | | |
| ※過程の網掛け部分は適宜変更下さい。 | | | |
| ※詳細に記載ください。 | | | |
| 過程時間 | 学習活動 | 指導上の留意点（支援） | 資料（教材） |
| 導入 (3分) 展開 | 1、前時の振り返り。 マングローブ林では、ゴミが散乱していたことや住民が侵入し食べ物を採っている実態を確認する。 2、本時の課題をつかむ。 「自然保護団体と住民が相互に協力してマングローブを守るためにはどうすべきか。」 | <ul style="list-style-type: none"> マングローブの保全をしているウェットランドセンターの取組を写真を通して確認し、マングローブ保全に向けての課題をふりかえさせる。 イメージしやすいよう、ウェットランドセンターや自然保護区、住民の家などがかかれた地図を掲示する。 | キャプション資料 ・地図 |

3、自然保護団体と住民の対立のロールプレイを行う。

- ①班の中で自然保護団体（2人）と住民（2人）と司会（1人）の3つの役に分かれる。
- ②役ごとに集まって作戦タイム。
- ③グループで自然保護団体、住民のそれぞれが意見を言う。
- ④意見を言い終わったら、司会の指示で話し合う。

児童には配役カードを配付する。

自然保護団体

- ・マングローブ林が破壊されると、様々な動物や植物の住家が失われる。
- ・マングローブを守るという役割がある。



(35分)

住民

- ・マングローブ林の中に入っはいけないという決まりはない。ウェットランドセンターができる前から住んでいた。
- ・自分たちの生活がかかっている。食べ物がないと生きていけない。



対立

4、自然保護団体と住民が相互に協力してマングローブを守る方法を考える。

- ・6つの方策から1つの方策を選び、理由を発表する。

方策（考え方）

- A、住民にお金を与えて、食料を買ってもらか、ちがう場所に住んでもらう。
- B、住民にマングローブの生物をウェットランドセンターの許可をとればとってよいことにし、マングローブを守る活動に協力してもらう。
- C、住民が自然保護区に入らないように、かなり高い塀を作る。
- D、警備員を今の1人から5人に増やし、自然保護区の警備を強化する。
- E、住民にマングローブの大切さを知ってもらうための授業をする。
- F、（自分で考えた方策）

まとめ

(5分)

5、まとめ

自然保護団体と住民は対立しているが、マングローブを保全するためには、住民と協力することが欠かせない。

6、地元釧路にも、同じウェットランドセンターがあることを伝え、そこではどんな取り組みをしているのか興味を持たせる。

【授業実践の様子】（本時での写真を添付し、キャプションをつけて下さい）



2、本時の課題をつかむ場面。
写真や地図を使うことは課題をつかむうえで有効だった。

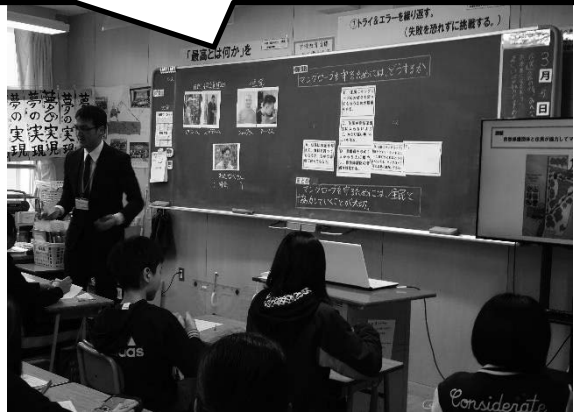


3、ロールプレイ。
住民と自然保護側の対立構造を理解することができた。

3、役ごとに集まっての作戦会議。
役としてどんな意見を言うのか、共有することができた。



2、本時の課題をつかむ場面。
写真や地図を使うことは課題をつかむうえで有効だった。



【6】本時の振り返り

- ・マングローブの重要性について理解が浅いまま、本時の授業を行ってしまったのでロールプレイに対する目的意識が浅く、あまり盛り上がらなかった。
- ・ロールプレイを通して、自然保護団体と住民側との対立構造は理解できたと思う。

【7】 単元を通した児童生徒の反応/変化

※この単元における学習者の変容が読み取れることを意識して下さい。記入者が文章記述を通して「このように変容した」と教師の言葉でその見取りを書くことも可能ですが、できる限り学習者本人の言葉や作品で示していただくことにより、具体性、説得性の高いものになります。

- ・マングローブを守らなければならないが、住民の生活を壊すわけにはいかない。マングローブを守るためには住民と協力することが大切。
- ・マングローブ林に侵入する住民にも理由があって、マングローブの生物をとっているからお金を与えれば少しは住民が生物をとらないと思った。
- ・マングローブ林に侵入する住民に自然の大切さを教えることで、自然を守ろうとする人が増えると思った。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲があれば記載下さい】

- ・世界には私たちの知らなかった環境問題がたくさんある。マレーシアという離れた国でも、私たちの生活につながっていることはたくさんあるはず、もっと世界の環境問題について知り改善していきたい。
- ・日本とマレーシアには、意外なつながりがあり、もっとマレーシアについて知りたいと思った。

【途上国・異文化への意識の変容について記載下さい】

(授業前)

・授業を始める以前に外国のイメージについて子どもに聞いてみたところ、「かっこいい。」「テレビで見て自然がきれいだ。」などプラスのイメージを持つ子がいる一方、「あぶないイメージ。」「戦争。」などマイナスなイメージを持つ子の方が多数いた。マレーシアについてはほとんど何も知らなかった。

(授業後)

・マレーシアクイズや海外研修での話を通して、パーム油や日本製品などマレーシアと日本にはかなりつながりがあることを知った。また、今回の授業を通してマングローブ林保全の重要性や課題について知り、環境問題は世界的に取り組まなければいけないことに気づかせることができた。

【8】 自己評価

| | |
|----------|---|
| 1. 苦労した点 | <p>※学習活動が展開する中での苦労や、そこで見えてきた問題点を記入して下さい。</p> <p>・今回は4時間という短い時間の中で、マングローブの重要性について考えることは難しかった。今回はスライド資料を使い、マングローブ林はなぜ必要なのか、なんのためにあるのかという重要性についてはクイズで教えるだけに留まった。そのために、理解が浅くロールプレイでも話合いの目的意識が非常に低かった。</p> |
|----------|---|

| | |
|-------------------|--|
| 2. 改善点 | <p>※実践を再度実施することや、他の学校で追試する場合のことを想定して、改善点を示して下さい。</p> <p>今回、マングローブの重要性について考える時間があまりとれなかったので、調べる時間を十分にとる必要があった。マングローブについての知識があれば、ロールプレイへの活動意欲も増していくと思った。</p> |
| 3. 成果が出た点 | <p>ロールプレイは、住民側と自然保護団体側の葛藤を学ぶ上で有効であった。なぜ葛藤しているか一方的にこちらで教えるよりもロールプレイを通して実際に役割演技をする方が葛藤をつかめるとわかった。そのためにも役割同士での作戦会議が有効で話し合いを円滑にする手法であった。</p> |
| 4. 備考（授業者による自由記述） | <p>海外での学びをどう教えるかというテーマで授業作りを行った。肌で感じたことや知ったことを伝えるのは難しく、一方的な教え込みでステレオタイプの児童にたくないという思いをもっていた。研修を通して学んだフォトランゲージやロールプレイなど様々な手法を活かした授業を行うことで、より深い学びができると実感できた。しかし、それらの手法が目的になってしまい、十分に理解させることができなかった。</p> |

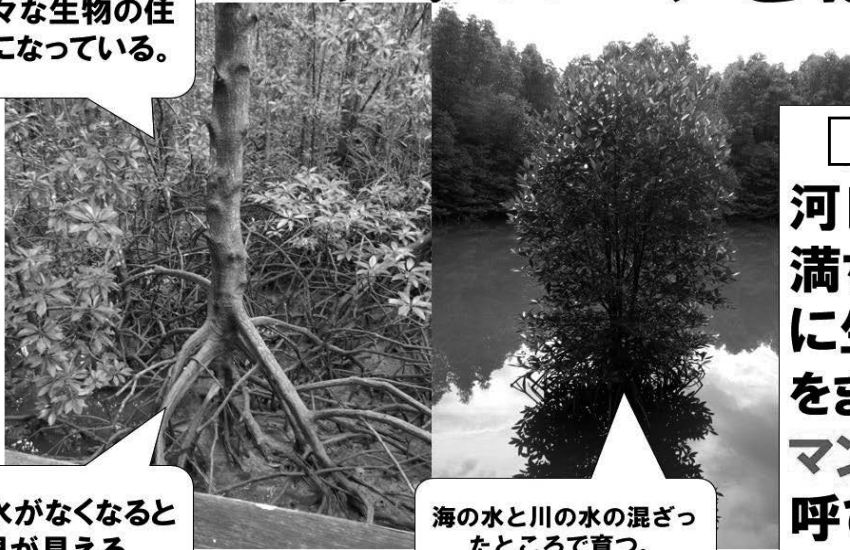


課題

マングローブについて 考えよう。

マングローブとは

様々な生物の住家になっている。



海水がなくなると根が見える。

海の水と川の水の混ざったところで育つ。

_____地域の
河口など、_____が
満ちてくるところ
に生えている植物
をまとめて
マングローブと
呼びます。

まとめ

- マングローブとは、_____地域の_____で育つ植物。
- マングローブは、生物の大切な住家になっているが、_____などで減少している。
- マングローブを保護するために「ウェットランドセンター」ができたが_____や_____など課題が多い。

学習感想（考えたこと）

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

配役カード



《国際協力団体から来た 渡辺さんの意見》

私は、日本人です。マングローブを守るためにマレーシアに来ました。マングローブは、貴重な生物の住家になっているなど重要な役割を果たしています。住民のみなさまには、自然保護区に入って、貴重な生物を採るのはやめてください。



《ウェットランドセンター職員 ジェイディーさんの意見》

私は、ウェットランドセンター職員のジェイディーです。ウェットランドセンターは、マングローブを守るためにできました。マングローブは今、減少しています。そのため植林活動など、マングローブを増やしたり保ったりする活動をしています。住民のみなさまが、勝手に自然保護区に入って、貴重な生物をとるのはやめてください。私たちの努力がむだになってしまいます。



《ウェットランドセンター警備員 ロンさんの意見》

私には、マングローブを守る役割があります。さくをこえて侵入し、マングローブの生物をとるのはやめてください。マングローブは、貴重な生物の住家になっているなど重要な役割を果たしています。住民の方々は、自然保護区以外で生物をとってほしいと思います。

マレーシアってどんな国？

課題

自然保護団体と住民が協力してマングローブを守るためにはどうするべきか。

名前（）

☆自然保護団体と住民の会議であなたの役はなんでしたか。

わたしは、の役でした。

☆自然保護団体と住民が協力してマングローブを守るためにはどうすればよいか。下の6

つの方策ほうさくの中から選んで、理由を書きましょう。

| | | |
|--------------------------------------|---|-----------------------------------|
| A、住民にお金を与えて、食料を買ってもらうか、ちがう場所に住んでもらう。 | B、住民にマングローブの生物をウェットランドセンターの許可をとればとってよいことにし、マングローブを守る活動に協力してもらう。 | C、住民が自然保護区に入らないように、かなり高い塀(へい)を作る。 |
| D、警備員を今の1人から5人に増やし、自然保護区の警備を強化する。 | E、住民にマングローブの大切さを知ってもらうための授業をする。 | F、(自分で考えた方策) |

最も大切に実際に取り組みたい方策

(記号で書こう。)

選んだ理由

| |
|---|
| <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> |
|---|